

こんなにも身近な「都市計画」



国道4号

市内に42路線ある都市計画道路の1つ。日本最長の国道で、現在も整備が進んでいます。



黒磯公園

市内に16か所ある都市計画公園の1つ。四季折々の景色が楽しめる市民の憩いの場です。



そすいスクエアAQUAS

都市計画による市街地再開発事業で整備され、買い物客などで賑わっています。



那須塩原駅西口地区

都市計画による区画整理事業で整備され、市の中心拠点として期待されています。



関谷地区

都市計画による区画整理事業で整備され、住みよい住宅地としての役割が期待されます。



那須塩原クリーンセンター

都市計画ごみ処理場として、市内の一般家庭から出たごみなどを一手に引き受けています。



か。例えば、住宅が密集し過ぎて、住まいの環境が悪くなってしまう。火事や騒音や悪臭などの公害問題が発生する可能性もあります。

こうした問題が起らないようにまちづくりのルールが作られ、このルールこそが「都市計画」なのです。

社会の変化に合わせたまちへ

これまでの都市計画は、人口が増えることを前提として作られてきました。しかし、人口減少と超高齢社会がやってきた今、将来にわたって「住みやすいまち」を守っていくために、都市計画にも変化が求められています。

これからの都市計画で重要なのは、人口が減り高齢者の数が増えても、今までと変わらない暮らしを続けられるようにすることです。そのためには、日用品を買うスーパーや、もしもの時の病院、銀行など生活を支える施設が住まいの近くにあり続ける必要があります。

こうした社会の変化に対応するために、市では、これからの時代にあふさわしいまちの将来の姿を皆さんと一緒に考えていきます。

未来へつなぐ 住みやすいまち



通い慣れた通学路や通勤路。四季折々の花が咲き、子どもたちの元気な声が聞こえる公園。そんな当たり前の日常は、「都市計画」のルールの中で整備され、私たちの便利で快適な生活が守られています。人口減少や超高齢化など大きな社会の変化に直面している今、住みやすいまちを未来へつなぐために、時代に合ったまちづくりが求められています。

もしも… 都市計画がなかったら？

まちを守る 土地利用のルール

どんな場所で、どんな目的でも土地を利用することができるとしたら、どのようなまちが出来上がるのでしょうか？さまざまな建物が混在したまちが必ずしも暮らしやすいとは言い難いでしょう。

こうした事態を防ぐために、土地を利用目的によって区分することで、住みやすいまちを守っています。

都市計画のルールがないと…



住宅と工場などが隣接して建てられる可能性もあります

都市計画のルールでまちづくりをすると…



住まいと工業のエリアを分けることができます

暮らしに欠かせない都市計画

「都市計画」と聞き、どんなことをイメージするでしょうか。何となくスケールの大きな、自分には関係のない話に聞こえるかもしれません。しかし、意識して身の回りを見てみると、実は私たちの暮らしの身近にあって、生活する中で利用しているものがたくさんあります。

例えば、国道4号に代表される道路、黒磯公園などの公園、そすいスクエアAQUASという複合施設、那須塩原駅西口地区や関谷地区の区画整理、ごみを処理する那須塩原クリーンセンター、市内を走る下水道など：日常生活に欠かせない多くのものが都市計画に基づき作られ、私たちの快適な暮らしが維持されています。

都市計画を簡単に言い換えると、市が主体となって、国や県と一緒に一定のルールでまちの将来の姿を設計すること。日本のまちの多くで、商業施設やオフィスなどが集まる「都市部」と、その周辺に住宅や工場、農地などが点在する「周辺部」という図式になっているのは都市計画によるものなのです。

では、もし都市計画がなかったら、私たちの生活はどうなるのでしょうか